

C—20 被服構成の人間工学的研究（第4報）
——歩行および階段上昇時における各種タイトスカートの着用感について——

三重短大 橋本貴美子
大富千恵子
金蘭短大 ○松下 知子

1. 着心地よいタイトスカートを製作するには、寸法、形、表地質、裏の有無など考慮しなければならないことが多い。タイトスカートを着用して階段を昇ったり、椅坐した場合、どの部分で布が伸び、どのようなしわがよりやすいかについては既報したが、今回はスカートを着用して動作をした場合の着心地を着用実験の結果より判定し、先の実験結果と総合してタイトスカート製作上の参考と資することを目的とした。
2. 体型別に比体重大、中、小の3名の被検者によ

り、形、表地質、裏の有無など異なった要素を組み合わせたスカートを9枚作製、被検者1名につき3枚のスカートを着用して、普通歩行、大また歩行、走る、普通階段上昇、バスステップ上昇の動作を行ない、動作時におけるすそ、もも、腰囲の着用感を5段階評価により官能検査を行なった。なお階段上昇についてはスカートのつり上り寸法を測定した。

3. すそ、もも、腰囲各部におけるすそさばき、引張り、圧迫感などの着用感を総合判定した結果、体型別では比体重大の者がすそ、ももでの引張りが少なく、地質では伸縮性のあるもの、形では後プリーツのあるものがすそさばき、引張り、圧迫感などの着用感がよいという結果となった。階段上昇時においては、バスのステップのように高い場合は足をまっすぐに上げると昇れないものもあり、階段では高い場合にすそのつり上りが大きくなる。